



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	The role of cytotoxic T cells in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis, the so-called Mikulicz's disease (IgG4 関連涙腺・唾液腺炎、ミクリッツ病における細胞障害性 T 細胞の役割)
Author(s) 著者	田邊谷, 徹也
Degree number 学位記番号	甲第 2769 号
Degree name 学位の種別	博士 (医学)
Issue Date 学位取得年月日	2014-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

学位論文の内容の要旨

報告番号	甲第 2769 号	氏名	田邊谷 徹也
<p>論文題名</p> <p>The role of cytotoxic T cells in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis, the so-called Mikulicz's disease</p> <p>—IgG4 関連涙腺・唾液腺炎、ミクリッツ病における細胞障害性 T 細胞の役割—</p> <p>研究目的</p> <p>IgG4 関連涙腺・唾液腺炎、ミクリッツ病(MD)は慢性炎症性疾患であるが、病態については未だ不明な部分が多い。今回、我々は MD と原発性シェーグレン症候群(SS)とでどのように病態が異なるか追求することを目的とし、両疾患の唾液腺に浸潤した細胞障害性 T 細胞(CTL)に注目し解析を行った。</p> <p>研究方法</p> <p>MD 患者 12 名の顎下腺組織と SS 患者 12 名の口唇腺組織に対して、免疫染色と蛍光抗体法を用いた多重染色を行い、浸潤した CTL にしめる Perforin(PRF)陽性 CTL、granzyme B(GZMB)陽性 CTL、および Programmed Death-1(PD-1)陽性 CTL の割合に違いがないか統計学的検討を行った。</p> <p>研究成績及び考察</p> <p>MD では SS と同程度の CTL が浸潤していたにもかかわらず、PRF 陽性 CTL の割合は有意に小さく、GZMB 陽性 CTL の割合は小さい傾向がみられた。逆に PD-1 陽性 CTL の割合は MD で有意に大きく、CTL の活性化との関連が示唆された。</p> <p>結論</p> <p>MD では細胞障害性顆粒を有する CTL は少数であり、この CTL の状態は HIV 感染における疲弊や悪性腫瘍におけるアナジーのように、PD-1 の発現と関係している可能性が示唆された。</p>			

論文審査の要旨及び担当者

平成 26 年 2 月 13 日提出

(平成 26 年 3 月 31 日授与)

報告番号	甲第 2769 号	氏名	田邊谷 徹也
論文審査 担当者	主査 篠村 恭久	副査 氷見 徹夫	
	委員 佐藤 昇志	委員 一宮 慎吾	

論文題名	The role of cytotoxic T cells in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis, the so-called Mikulicz' s disease (IgG4 関連涙腺・唾液腺炎、ミクリッツ病における細胞障害性 T 細胞の役割)
結果の要旨	<p>本研究は IgG4 関連涙腺・唾液腺炎、いわゆるミクリッツ病の唾液腺におけるは細胞障害性 T 細胞 (CTL) の浸潤状況と活性状態について明らかにすることを目的に行われた。ミクリッツ病ではシェーグレン症候群と同程度の多数の CTL が浸潤しているにもかかわらず、細胞障害性顆粒を有する CTL はシェーグレン症候群に比較して少数であることを見いだした。また、Programmed Death-1 (PD-1) 陽性の CTL の割合はシェーグレン症候群よりもミクリッツ病で有意に大きいことを明らかにした。それにより、ミクリッツ病では CTL の機能が抑制されている可能性が示唆された。これらの結果はミクリッツ病の病態を解明するうえで重要な知見と考えられ、本論文は博士論文に値するものと認められた。</p>